

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



「ヒライ信」ジョークイズ

落語に出てくる川柳・狂歌・ことわざシリーズ

「伝え聞く 鼓ヶ滝に来てみれば 沢辺に咲きし たんぽぽの花」

→西行 鼓ヶ滝

今から八百年以上昔に、西行法師という方がいました。

この方は和歌の名人、歌人でございます、今でも百人一首にその歌が残っております。

「嘆けとて 月夜はものを思はする かこち顔なるわが涙かな」

西行は、各地を転々としました。色々の歌が残っております。

八王子には「浅川を 渡れば富士の 影清く 桑の都に 青嵐吹く」

鼓ヶ滝にやってまいりました西行法師は

「伝え聞く 鼓ヶ滝に 来てみれば 沢辺に咲きし たんぽぽの花」と詠んだ。われながらよい歌である。自画自讃をいたします。ところが、道に迷い、近くの民家に泊めてもらう。その爺さん、婆さんと孫娘にこの歌を披露するが、その3人から次々と歌を直されてしまう。「音に聞く 鼓ヶ滝に うちみれば 川辺に咲くや 白百合の花」

西行の詠んだものとは全く違ったものになってしまう。「ああ、われいささか歌道に慢心をいたしたか。わが増長であったか。あなたがた3人は、ただの素人ではない。きっと住吉大明神、人丸明神、玉津島明神の和歌三神が、われを諫めんがために、三人に姿を変えて現われたに相違ない。お前さん方3人が仰せのとおり直させていただきます。」

これから血の滲むような修行をいたしまして七十三歳、大阪の弘川寺でこの世を去ったのちも、日本人の心の中に歌の名人、和歌の天才としていまだに生き続けたといひます。

人は死して名を残す、虎は死して皮残す、という。「西行鼓ヶ滝」の一席でございます。



■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「楽しく演じる」(春風亭昇也のまくらから)

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も 謎かけ で、お題は「ひまわり」「冷やし中華」とかけて

次回は2022年9月5日(月)「うさぎ」「唐辛子」